

とよなか がんサロン 開催報告

第8回 平成27年1月26日 開催

【ミニレクチャー】(13:30~14:15) 参加人数:患者11名・家族10名

「緩和ケア(ホスピス)病棟ってどんなところ?」

医療法人ガラシア会 ガラシア病院 地域医療連携室 看護師長 本山 照美氏

【談話会】(14:15~15:00)

参加人数:患者10名・家族9名

当院医療スタッフ:看護師4名 MSW2名

平成27年最初の「とよなか がんサロン」は、初めて院外からの講師をお招きして開催しました。

「緩和ケア病棟・ホスピス」とはよく聞くけれど、実際はどういうことをしているの?ということで、豊中市のお隣・箕面市にある、ガラシア病院の本山照美看護師長より「緩和ケア(ホスピス)病棟ってどんなところ?」をテーマにお話しいただきました。

緩和ケア病棟・ホスピスとは、主に末期のがん患者さんに対して緩和医療や終末期医療(ターミナルケア)を行うところで、「痛みや苦痛を少しでも減らして過ごしたい」「穏やかな時間を過ごして『その時』を迎えたい」と自ら望んで来られたがん患者さんをサポートする場所です。痛み・倦怠感・食欲不振など、不快に感じる症状すべてを最大限に減らす『症状に対する治療』が最優先であり、苦痛を伴う検査・治療を基本的には行わない点が、(豊中病院などの)一般の病棟と異なります。

各種健康保険と自己負担限度額が適用になり、食事代も一般の病院と同じです。そのほかに、患者さんの状態やご希望によっては、差額ベッド代(個室代)、おむつ代や病衣代など自費での負担が必要です。4人部屋や無料の個室がある病院もあります。

その人らしさを尊重することを大事にしており、病室の造りがゆったりしている、個室が多い、家族が泊まれる部屋がある、24時間いつでも面会可能、起床や食事の時間が自由、など患者さんの生活習慣や体調に合わせて過ごせる環境になっています。

緩和ケア病棟というと『治療ができなくなってから入院し、最期まで過ごす病院』というイメージをもつ方もおられますが、今は『緩和ケアはがんの治療と一緒に始める』とされています。早期から緩和ケアを受けるメリットは、症状緩和の医療が充実していること、治療の合間の身体的・精神的な休息の場になること、患者さんやご家族の不安に対して援助できることなどがあります。ホスピス入院中はがんの治療(抗がん剤治療、放射線治療など)は受けられませんが、治療の合間などのつらい時期に症状を緩和するために入院し、退院後に治療を再開する方、入院時は状態が悪くなくても、その後体調が良くなって退院する方もおられます。

患者さんにご家族の安心や、いい時間を過ごすために、緩和ケアを上手に利用してはいかがでしょうか。医療機関によっても差があるので、気軽に見学に行ってお話を聞いていただきたいと思います。

このほかに、たくさんの写真を織り交ぜながら、ガラシア病院の概要や院内のイベントもご紹介いただき、院内で結婚式をされた話も聞くことができました。

続いた談話会は、患者さん・ご家族・当院職員から本山看護師長への質問コーナーとなりました。

「ホスピスをこういうふうにご利用できるのか!」と感じた方も多かったのではないのでしょうか。

ホスピスで働く看護師さんのお話を聴ける貴重な機会に、これまでの8回のサロンで一番多くの方に参加いただきました。参加者の方からは「ホスピスのイメージが変わった。聴きに来てよかった」といった感想をいただきました。